

《教育目標》 【かしこく やさしく たくましく】

《目指す学校像・子ども像》

「笑顔あふれる「たい」が泳ぐ学校」

～「分かり合おうとする心」と「考える力」を言葉と向き合いながら身に付ける子ども～

本校第17代校長となりました 内藤みゆき と申します。今年度は158名の新生を迎え、全校児童904名、27学級で令和5年度が始まりました。

本校は今年度、創立60周年を迎えます。人と言うところの還暦に当たる「成熟」期であると同時に、新たな教育的諸課題に対応していく「新生」期であるとも言えます。若葉小は現在、学区内の児童数急増や施設の老朽化等の課題を抱えております。それらに対応するとともに、地域コミュニティの拠点となる学校づくりを目指して、隣接する第四中学校、図書館若葉分館と一体化した施設を創るべく、調布市の計画が進んでいます。未来に向けた計画を着実に推し進めていくことは勿論ですが、今、目の前にいる子どもたちの毎日が充実するよう、誠実に教育活動を積み重ねていくことが最も大切なことと考えます。

本校の教育目標を念頭に、今年度は冒頭に記した学校像・子ども像を教職員及び保護者・地域の皆様と共有し、「～したい」という子どもたちの前向きなエネルギーと笑顔が溢れる学校を目指していきます。

それを実現するには、第一に「安全・安心な学校環境」が不可欠です。施設の安全点検や食物アレルギー対応を引き続き徹底していくとともに、教育活動全般を通して、社会性や道徳的心情を育成し、子どもたちの「自己指導能力」の向上に努めていきます。

第二に「自尊感情・自己肯定感」を高めていく必要があります。これらがなければ、前向きなエネルギーは生まれてこないからです。「分かる授業」「関わり合いながら学ぶ楽しさを感じることのできる授業」を目指して授業改善に努め、子どもの主体性を引き出していきたいと考えます。そして、何事も結果だけで判断せず、努力の過程を認め合う風土を醸成し、自信をつけさせていくことが肝要と考えます。

第三に「個に応じた支援」の充実も欠かせません。ご家庭や関係諸機関と連携しながら、一人一人の困り感に寄り添い、より良い支援の在り方を検討し、実施につなげていきます。当然ながらこの事は、先に挙げた「自尊感情・自己肯定感」の向上にもつながるものです。

また子どもたち自身が、自分で自分を伸ばしていけるようにするには、豊かな言葉を獲得していく必要があります。物事を考え、それを表現するにも、他者とコミュニケーションを取るにも、言葉を介するからです。他者と協働していくための基盤となる「分かり合おうとする心」や「考える力」を言葉と向き合いながら身に付け、「かしこく やさしく たくましく」生きていく子どもたちを、大人たち皆で手を携え、一緒に育てていく学校でありたいと願っています。

本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

調布市立若葉小学校長 内藤 みゆき